



会員のひろば



短歌勉強会

ひとつずつあなたのメールを消していく
心に残る笑顔の絵文字

梅崎由貴美

知人の名お悔やみ欄に見つけだし
テニスコートでライバルの君

斎藤 邦子

青い空色濃く広がり背伸びする
いつしかグレー冬は気まぐれ

瀧澤いつ子

辛すぎるだから無理でも笑うのよ
志願女性のウクライナ兵

土橋 芳美

空はおだやか遙かなるかの国の
空の真下は空爆続く

中浜 敏明

焦がる春ガツンと胸に火をつけた
蛍光黄色のミモザの木

中山 寿子

当たらない判っていても気もそぞろ
又売り出した憎つきジャンボ

福学真理子

誕生日友より貰いし和蠟燭夢を
見つけて私は点る

森下 良子

若くして亡くなりし父と一度だけ
交わした酒は永遠(とわ)の思い出

大野 一

第二十六回 NHK 全国短歌大会入選作品

選者 俵 万智さん他9名

【秀作】

独りでも溜まるプラゴミ生きていて
よろしいですかとお日様に問う

中浜 敏明

アイヌと松浦武四郎

3月のわくわく・旅行企画は、小金湯の「サッポロピリカコタン」に行きました。

今回の目的は、二つあります。一つは、アイヌ民族の歴史や文化・習俗を学ぶ事。二つ目は、今から 180 年ほど前に蝦夷地に渡り、その後 6 回にわたり 13 年間で延べ 4 年 6 か月、蝦夷地の海岸部や内陸部、それに樺太、国後島、択捉島などを探検した「松浦武四郎」とアイヌの関係性について知る事でした。

彼が 6 度の調査・探検に際して、地元アイヌの人々の協力がなければ成し得なかったと、自著の日誌や調査報告書に記しています。この当時のアイヌが松前藩の場所請負制によって、そこを差配する運上屋の支配人や番人から漁場を奪われ、男は漁場に強制労働され、女性は和人に犯され妾にされるという屈辱的な仕打ちを受けていたのですが、これらの人間性を踏みにじられる惨状に対して幕府に訴える術がないアイヌに代わって、報告書において加害者の実名を挙げて代弁したのは松浦武四郎だったのです（このことによって、彼は刺客に狙われることになるのですが）。また、内陸部を詳細に示した地図を作製した際に、地名をアイヌ語表記（9,800 地名をアイヌから聞いた音そのものをカタカナで表記）し、調査に協力したアイヌの人々の名前（270 名）を地図の中に書き込むことが、何よりも彼はアイヌの人々を人間として扱い、アイヌに対する感謝並びに尊敬の念を持って接していたヒューマニズムの人だったのです。

私たちは蝦夷地の探検家について、学校の教科書で習ったのは、最上徳内や近藤重蔵、或いは間宮林蔵などでしたが、蝦夷地を北加伊道（北海道）と命名した松浦武四郎についても是非、知ってもらいたいとの想いで、今回の企画を立てた次第でした。

旅行サークル 森川勝彦



RS さん
からの
投稿です
楽しい！

誰かに似て
る？（笑）



もう、終電車出ました...